

暮らしを支える税

四万十市立中村西中学校 3年 清水 琴真知

私は幼い頃から父子家庭で育ってきた。

父は私を含む三人の子供を育てるために朝から晩まで仕事に励んでくれている。祖母も仕事を始め、そのお金で服やお菓子を買ってくれたり週に何回かご飯を食べさせてくれたりする。しかし、祖母がついているとはいえ、男手一人で三人の子供を育てるのは難しい話だっただろう。手のかかる私たちの為に汗水流して働いてくれている家族に私は感謝している。

私の家庭は毎年、何かの援助の書類を学校に提出している。しかし、どういった内容の援助なのかは全くもって知らなかった。ふと気になった私は、ある日祖母に聞いてみたのだが、これが衝撃的だった。どうして、今までこの事を何も知らなかったのだろう。そう、後悔したほどだった。私が感謝すべき相手は家族だけではなかったのだ。どうやら市の教育委員会が活動している「就学援助制度」というもので、郊外活動費や修学旅行費、学校給食費、学用品費などを援助してくれているらしい。

小学一年生の頃、父は私の給食費が払えず滞納してしまった時期があったそうだ。そんな時、同じ職場の人から聞いたのが「就学援助制度」だったのだという。だから私はこの「就学援助制度」に、かれこれ小学校低学年のころからお世話になっている。

就学援助制度や小学一年生の頃の話など、初耳のことばかりで驚いた。それ程ギリギリの生活を送っていた時期があったとは知らなかったからだ。また、その生活を助けてくれていた人は祖母だけではなかったということも知らなかった。私たちの生活は沢山の方々が納める税によって支えられていたのだ。我が家の救世主と言っても過言ではない。

このことを知ってからというもの、私は沢山の方々に対して、感謝してもしきれない気持ちでいっぱいだ。道ですれ違った人にも、レジで会計を済ませている人にも思わず心の中で感謝の言葉をかけてしまう。私の父や祖母と同様に、汗水流して稼いだお金を税金として納めてくれているのだから。そして、私たち家族は今そのお金に助けられている。私は沢山の方に助けられているおかげで、十分な教育を受けることができている。だから私はその厚意を無駄にすることなく立派な大人になれるよう、努めたい。そして、自分でお金を稼いで税金を納めることで誰かの助けになりたい。そういった形で必ず恩返ししたいと思う。助け、助けられる、税のサイクルの素晴らしさを、もっと沢山の人に気づいてもらえるように。